



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マーベラス

コード番号 7844 URL <http://www.marv.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 CEO (氏名) 中山 晴喜

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 CFO 管理統括本部長 (氏名) 加藤 征一郎 TEL 03-5769-7447

四半期報告書提出予定日 平成29年2月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	21,636	△10.7	3,821	△3.8	3,917	△0.6	2,820	4.8
28年3月期第3四半期	24,229	33.1	3,972	35.8	3,940	26.6	2,690	43.5

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 2,860百万円 (6.3%) 28年3月期第3四半期 2,689百万円 (41.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	54.52	—
28年3月期第3四半期	51.06	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	22,480	15,223	67.7	294.14
28年3月期	20,370	13,921	68.3	268.84

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 15,213百万円 28年3月期 13,904百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,000	6.9	6,000	10.7	5,850	11.9	4,150	15.2	80.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）追加情報」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	53,593,100株	28年3月期	53,593,100株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	1,872,400株	28年3月期	1,872,400株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	51,720,700株	28年3月期3Q	52,696,336株

（注）29年3月期3Qの期末自己株式数については、「株式給付信託（BBT）」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有している500,000株を含めて記載しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結貸借対照表関係)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	7
(株主資本等関係)	7
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、国内外でVR（ヴァーチャル・リアリティ）の話題が多く取り上げられ、VR関連ニュースに大きな注目が集まりました。また、世界的なIPを使用したスマートフォン向けゲームがリリースされ、世界中で社会現象を巻き起こしました。ライブ・エンターテインメント市場も好調で、ミュージカルや演劇等のステージ公演の成長が継続いたしました。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPの確立に向けたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）の業績は、売上高21,636百万円（前年同期比10.7%減）、営業利益3,821百万円（前年同期比3.8%減）、経常利益3,917百万円（前年同期比0.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,820百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①オンライン事業

当事業におきましては、12月でサービス開始から3周年を迎えた主力タイトル「剣と魔法のログレス いにしへの女神」において、新機能の実装や継続的なコラボレーションイベントの実施、3周年記念イベントの実施等により、ユーザーの拡大及び収益の回復に努めた結果、好調に推移いたしました。一方で、同タイトルの中国展開におきましては、当初想定していたような収益が見込めずサービスの中止を決定いたしました。このほか、第2四半期までに、不振タイトルのサービス提供を中止したほか、一部の開発中タイトルの開発を中止し、開発費用を一括計上いたしました。

この結果、当事業の売上高は11,455百万円（前年同期比25.4%減）、セグメント利益は2,489百万円（前年同期比26.1%減）となりました。

#### ②コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成28年11月10日に発売した「Fate/EXTELLA（PS Vita・PS4）」が、シリーズ前作実績を大幅に上回るヒットとなりました。また、平成28年6月23日に発売した「牧場物語 3つの里の大切な友だち（ニンテンドー3DS）」が順調なセールスとなっているほか、平成28年7月14日に「UPPERS（アップーズ）（PS Vita）」を発売いたしました。

アミューズメント部門におきましては、新型マシンとして平成28年6月23日より「ドラゴンクエスト モンスターバトルスキャナー」を、平成28年7月7日より「ポケモンガオーレ」を、それぞれ稼動開始いたしました。

この結果、当事業の売上高は6,498百万円（前年同期比9.8%増）、セグメント利益は1,197百万円（前年同期比83.3%増）となりました。

#### ③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、TVアニメ「魔法つかいプリキュア！」等のパッケージ商品化を行ったほか、平成28年7月より当社主幹事TVアニメ「クオリアディア・コード」の放送を開始いたしました。また、平成28年10月よりTVアニメ「刀剣乱舞-花丸-」の放送を開始し、同タイトルのBlu-ray・DVD販売が好調に推移いたしました。加えて、当社ライブラリの映像配信や番組販売等の二次利用収入が好調に推移いたしました。

ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」、「舞台『弱虫ペダル』」、「ミュージカル『薄桜鬼』」、「舞台『K』」、「超歌劇『幕末Rock』」といったシリーズ作品の新作公演を行い、それぞれ好調に推移いたしました。また、新作タイトルといたしましては、「舞台『刀剣乱舞』虚伝 燃ゆる本能寺」や『あんさんぶるスターズ！ オン・ステージ』の公演を行い、それぞれBlu-ray・DVD販売も合わせて大好評となりました。

この結果、当事業の売上高は3,709百万円（前年同期比25.2%増）、セグメント利益は990百万円（前年同期比24.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産22,480百万円（前連結会計年度末比2,110百万円増）、負債7,256百万円（前連結会計年度末比807百万円増）、純資産15,223百万円（前連結会計年度末比1,302百万円増）となりました。

（流動資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加等により17,252百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,047百万円増加いたしました。

（固定資産）

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、有形固定資産の増加等により5,228百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,062百万円増加いたしました。

（流動負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、未払金の増加等により7,194百万円となり、前連結会計年度末に比べ773百万円増加いたしました。

（固定負債）

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、資産除去債務の増加等により62百万円となり、前連結会計年度末に比べ34百万円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益2,820百万円を計上したものの、前連結会計年度の配当による利益剰余金の減少等により15,223百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,302百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年5月12日発表の業績予想を変更しておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （2）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

（取締役に対する株式給付信託（BBT）の導入）

当社は平成28年7月29日開催の取締役会決議に基づき、平成28年8月16日より、当社の取締役に対して、中長期的な業績向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的とし、新たな株式報酬制度「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust）以下、「本制度」という。）」を導入しております。

#### ①取引の概要

当社は、取締役に役位及び業績達成度等により定まるポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式等を給付します。

取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として退任時となります。

取締役に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分割管理するものとします。

#### ②信託に残存する自社の株式

本制度の導入に伴い、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が、当社株式500,000株を取得しております。

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付帯する費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第3四半期連結会計期間末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、428百万円及び500,000株であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,786	9,097
受取手形及び売掛金	4,558	5,075
電子記録債権	39	101
有価証券	567	699
たな卸資産	1,134	645
その他	1,133	1,648
貸倒引当金	△15	△15
流動資産合計	16,204	17,252
固定資産		
有形固定資産	461	1,489
無形固定資産		
のれん	761	617
その他	1,257	1,524
無形固定資産合計	2,019	2,142
投資その他の資産	1,782	1,694
貸倒引当金	△98	△98
固定資産合計	4,165	5,228
資産合計	20,370	22,480
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	876	757
短期借入金	160	160
未払金	2,796	3,333
未払印税	965	1,179
未払法人税等	497	407
引当金	192	140
その他	933	1,216
流動負債合計	6,421	7,194
固定負債		
資産除去債務	26	62
その他	1	—
固定負債合計	27	62
負債合計	6,448	7,256
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,128	1,128
資本剰余金	6,382	6,261
利益剰余金	8,456	9,725
自己株式	△2,057	△1,936
株主資本合計	13,909	15,178
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△5	34
その他の包括利益累計額合計	△5	34
新株予約権	15	8
非支配株主持分	1	1
純資産合計	13,921	15,223
負債純資産合計	20,370	22,480

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	24,229	21,636
売上原価	9,548	9,578
売上総利益	14,680	12,058
販売費及び一般管理費	10,708	8,236
営業利益	3,972	3,821
営業外収益		
受取利息	7	18
為替差益	—	74
受取賃貸料	5	4
貸倒引当金戻入額	1	0
その他	4	1
営業外収益合計	19	100
営業外費用		
支払利息	1	0
為替差損	3	—
事務所移転費用	44	—
その他	1	4
営業外費用合計	50	4
経常利益	3,940	3,917
特別利益		
子会社清算益	—	16
関係会社株式売却益	30	—
新株予約権戻入益	—	6
特別利益合計	30	22
特別損失		
固定資産除却損	1	—
貸倒引当金繰入額	83	—
特別損失合計	84	—
税金等調整前四半期純利益	3,886	3,939
法人税等	1,195	1,119
四半期純利益	2,691	2,820
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,690	2,820
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1	40
その他の包括利益合計	△1	40
四半期包括利益	2,689	2,860
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,689	2,860
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、重疊的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	12百万円	9百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	663百万円	1,265百万円
のれんの償却額	152百万円	143百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

平成27年5月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	1,069百万円
② 1株当たり配当額	20円00銭
③ 基準日	平成27年3月31日
④ 効力発生日	平成27年6月8日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

(自己株式の取得)

平成27年9月3日付取締役会決議により、会社法第165条第3項により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決定し、平成27年9月10日及び平成27年9月11日に自己株式を取得いたしました。

取得した株式の種類	普通株式
取得した株式の総数	1,600,000株
株式の取得価額の総額	1,783百万円
取得方法	信託方式による市場買付

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

平成28年5月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	1,551百万円
② 1株当たり配当額	30円00銭
③ 基準日	平成28年3月31日
④ 効力発生日	平成28年6月6日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,351	5,918	2,958	24,229	—	24,229
セグメント間の内部売 上高又は振替高	0	0	5	5	△5	—
計	15,352	5,919	2,963	24,234	△5	24,229
セグメント利益	3,368	653	797	4,818	△846	3,972

(注) 1 セグメント利益の調整額△846百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「オンライン事業」において、株式会社ジー・モード株式の取得に伴う連結子会社化により、のれんの金額が950百万円増加しております。また、株式会社エンタースフィア株式を売却し、連結の範囲から除外したことにより、のれんの金額が91百万円減少しております。これらの事象による当第3四半期連結累計期間ののれんの金額の影響額は、858百万円の増加であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,455	6,498	3,682	21,636	—	21,636
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	26	26	△26	—
計	11,455	6,498	3,709	21,663	△26	21,636
セグメント利益	2,489	1,197	990	4,677	△855	3,821

(注) 1 セグメント利益の調整額△855百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	51円6銭	54円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	2,690	2,820
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,690	2,820
普通株式の期中平均株式数(株)	52,696,336	51,720,700
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	—
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	第5回新株予約権 7,860個 (普通株式 786,000株) 発行日 平成27年5月29日	—

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載しておりません。
2. 「株式給付信託(BBT)」制度に関する資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当第3四半期連結累計期間において250,909株であります。